

## 第18回全国生涯学習

### フェスティバル

10月5日から9日まで、ひたちなか市の笠松運動公園等の主会場や地域開催地において、全国生涯学習フェスティバルが開催され、県内外の生涯学習に関わる団体・企業・行政関係者が参加し、自主的な企画による展示や発表を行いました。

当町は、町の紹介・公民館活動の紹介（出前講座の開催）や昔のものづくりの紹介（たたら製鉄の東小学校の取り組み）などの展示や発表を行いました。



ビーズづくり講座



折り紙講座

特に出前講座では、ビーズ作り講座と折り紙講座を行い、当日は用意した材料が不足するほどのにぎわいでたくさんの方々が貴重な体験をしました。

また、竹炭講座で作った竹炭・竹酢液の無料配布や利根川の砂から磁石を使った砂鉄の採取体験なども行い、家族連れなどが楽しい一日を過ごしました。



## 「家族のきずな」エッセイで

### 入賞

茨城県教育長賞

海老沼友稀さん（五霞西小6年）

入選

神谷 万優さん（五霞西小2年）

第18回全国生涯学習フェスティバルまなびピアいばらき2006の一环として行われた「家族のきずなエッセイ」（主催（財）モラロジー研究所）に19、022編の応募があり、そのなかから海老沼友稀さんの「交かん日記」が茨城県教育委員会教育長賞に、神谷万優さんの「わたしのかぞく」も入選しました。

教育長賞を受賞した海老沼友稀さんの作品をご紹介します。



受賞された海老沼さん

『小学校1年生になつてから、お母さんと交かん日記を始めて、もう6年になりました。皆さんは、家族と自分で何か長く続けている事はありますか。私の日記には、なやみや、その日楽しかった出来事や学校で覚えた漢字を書いていきます。お母さんは、その日の大事なニュースを書いてくれたり、ほめてくれたり、アドバイスを書いてくれます。』

この日記を始めてから、何でもいから長く続けることの大切さや相手の心を感じる事や、自分一人というのは、とてもさびしいという事がわかりました。相手がすぐ近くにいた安心感もわかるし、ふと昔にもどれたり、心があたたくなったり、なつかしかったりします。そしてお母さんともきずなが強くなりました。ただ書いているだけなのにいるんな心がわかり、この日記のきずなの強さがわかりました。おこられても、お母さんの本当の気持ちには、自分が一番に思っていることがわかりました。

交かん日記はだれとでもでき、きずなを長く深くできる方法のひとつです。この日記で自分の命の大切さや家族の大切さも知るひとつの方法だと思いました。家族ってみんなみんなつながり合っているんだなと思いました。「きずな」ってすてきな言葉だな。』